



問

持続的に生きていくには世界中の叡智が必要
命と自然との調和、循環型社会を
考えている

豊創会 村上 孝 議員

議員 環境は2つ考えられる。1つは自然環境、2つ目は人間による文明、文化の発展によって作り上げられた環境である。持続的に生きていくためには世界中の人類が叡智をもって対処していかなければならないと思う。

村長 環境を無視した経済主義でなく、命と自然との調和、あるいは循環型社会を考えている。東海村みたいに環境基本計画やエコオフィスプランを作っている市町村は、茨城県内では皆無に近いと思う。高い志を持って作られているのが第5次総合計画、環境基本計画というふうに理解しており、実現していきたい。その中で根底、バックグラウンドとしての環境都市宣言が必要だと考えている。



中丸地区畑地帯総合整備

議員 東海村の自然環境と人の暮らしが調和した循環型社会を構築するために土地利計画の再検討を行い、村民とともに横断的に本村の都市政策を進めなければならない。
副村長 地域特性を活かした土地利用の形成ですが、早速10月から検討

委員会の中で、この議題をテーマにしまして議論しています。この自然環境を後世の世代に残していくのは、村の大切な使命です。今後どのように目指していくべきか、村民のご意見を聞いて最終的には合意を図っていきたい。役場として案を提示する必要がある中で、検討委員会の中で早急にまとめ、具体的に村民の皆さまにお示ししていきたいと思っております。

議員 原子力とまちづくりは、原子力研究と農工商および観光業を一体化させて、推進する必要があると思う。

総合政策部長 平成25年度より名称をTOKAI原子力サイエンスタウン構想と、国際的まちづくり推進プロジェクトと改め構想を踏まえた国際のまちづくり及び、村の資源を生かしたまちの活性化に関する事項を推進する予定となっている。原子力研究と農工商及び、観光も含め、総合政策部を中心に、総合的に進めていくものである。

議員 第5次総合計画が目指すまち

づくりを実現させ、自然環境や先端科学技術と共生する、新しい叡智を世界に向けて発信する責任があると思う。ぜひ環境宣言をし、土地利用は、非常に困難な事業だと思ふ。でもこれはやらなくてはならない、まちづくりの基礎になります。本村の気候風土、文化を生かし、村長がいふ、ふるさとを残したまちづくり、村民の叡智が生きるまちづくり、今と未来を生きるすべての命あるものために、安心して住める住み良いまちづくりを望む。



中央地区区画整理